

学年別分散登校挨拶(校内放送)

2020年6月22日

みなさん、おはようございます。

前回の遠隔授業開始のメッセージは文章でしたが、今日は声による挨拶です。

1年生と5年生は6月8日から対面授業を2週間行いました。今日から、2年生と4年生の対面授業を行います。これまで、6週間、遠隔授業を頑張ってくれてありがとうございます。

みなさんは対面授業を待ちかねたかと思います。長く待ってもらいましたので、期待とともに不安もあると思います。学習面でも生活面でも、不安や困難は何でも言ってきてください。

この対面授業では、遠隔授業では難しかった実験・実習を主に行いますが、座学の授業も対面授業を入れていきます。聞きたかった先生の声もたくさん聞けます。文章にするのが難しかった質問もできます。ぜひたくさん質問してください。

5月11日の遠隔授業開始の校長メッセージで、寺田寅彦先生を読みましようと言いましたが、彼の「小爆発二件」と題する随筆に「正當にこわがる」という言葉が出てきます。昭和10年、1935年の随筆なので85年前のことです。浅間山の爆発を見たいと思っていた筆者は偶然にその爆発に遭遇したのですが、爆発した浅間山から降りてきた学生が駅員に対して、「のぼってくる学生を見たが大丈夫ですよ」と言っているのを聞いて、「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正當にこわがることはなかなかむずかしいことだと思われた。」と書いています。

この学生たちの行動は今の新型コロナウイルス感染症への人間の対応と似ています。

正常性バイアスという心理学用語があります。自分だけは大丈夫と根拠もなく信じたり、世の中に何が起こっても、まるで人ごとのように考え、行動してしまうことをいいます。

みなさん、コロナに関しては、正當にこわがらましよう。

正當にこわがって、我々が心がけることは、「感染に対して自分が気を付けることが、他人のためにもなり、他人が安全になることで、自分の安全も強固になる」ということを意識して行動することだと思ひます。

自分ができる予防はしっかりやります。手洗い、咳エチケット、3つの密を避ける、運動・食事・休養・睡眠の調和のとれた生活を続ける、まめに換気する、毎日の健康観察とその記録、などです。

iPS 細胞でノーベル賞を受賞された山中伸弥先生による新型コロナウイルス情報発信というホームページがあります。6月16日付けの新着情報の「科学論文に学ぶ」という欄に「マスクの重要性」という記事があります。そこには、『イタリアでは4月7日に、ニューヨークでは4月16日に Face mask の着用が義務付けられてから、感染者の減少が促進された。新型コロナウイルス感染症においては、飛沫や接触感染よりも、微小飛沫(エアロゾル)による感染が重要であり、マスク着用が感染拡大防止に効果的であると考えられた。』とあります。

ということは、マスクをしてないときに、より注意が必要だということだ。食事のときはマスクを外さなければなりません。それで、食事のときは黙々と食事をしてください。おしゃべりしながらの食事が楽しいですが、しばらくの間、食事は黙々と願ひします。

また、この“感染症”の怖さは、病気が不安を呼び、不安が差別を生み、差別が更なる病気の拡散につながることで、差別や偏見のもととなる「不安」を解消するために、公的機関が提供する情報を得ることや、悪い情報ばかりに目を向けないこと、そして差別的な言動に同調しないことが大切です。

私たち一人一人が心掛けて行動ましよう。

それでは、体を慣らしながら、対面授業に取り組んでください。